春色辰巳園

四編

上

特
へ遠13
842
10

遠へ門
842
10

明治三六年
十月十八日
購求

序

梅津義堂辰之助園合うて
通計八編をなれ八陣おり位ふ等くの
色彩諸分の六踏を略一編の味
深長魚鱗ふ備へ當るの看客の翼了
この通へてをもてをなるをみ九をなるを八春月備

横行あるべし。厚紙あるべ。せんもんを
長蛇の備放矢虎踏の陣ぶをはろ破軍
剣先を結ぐ。あるべ人あれ信奨ふ。
極意式あるべ情もあり。もの人のもとの色の
道ハ彼孔明の八陣ふ取用れ。りの不同ぐ。
引ふ知の人義理と意地年季式かうゆ

いつまでも。出られぬ出門請出ぎれぬ。身を
保あるべ生南門彰簡ぎ金ろ掛引
あれぐ。夜討朝掛れ嫌ひ敵。ぎとぬ
を伺ふ悪びの術。客式ぶぐ日夜の
迎ひ。船宿の出九。国房ぬ籠城式
付あ者二社見ぬ備。あるべ知れも。ん

手ずから。紙を切て。場数の功名を誇る。
出紅葉を赤の矢羽。山ざくら。由断
なき人情反覆孫氏の兵法を学ぶ。
嘶バ。古来武則軍威を妓女に比す。
亦恐ばくれを刈者夫を婦子
なる。嗚呼あたまを戰場と備上将者

時を卒怠る容者何ぞ身傾もく。慎く
ものの驚暮に老迫たるあく子孫の後業
を計る者ハ人の軍師の策を伏是非
を大将の業質あ家ゝ有吾通と
不通乃理論を待けく。

金龍山人
未乃陽春

為永春水誌

松竹梅の操
三美人
いづれと是と定めん
よろづ看官の高評ふ
その見立て
頼ふ
蝶
俄吉
たゞし
お蝶ゲ
いろも
あどうた
姿八児女
童幼
たちふ
ちゝ
ちゝ
画工の筆ふ
巻末のかゝれいさう
巻八

妙法の功力
血筋を
方便の木文字
災厄
生福
生可義の霊場
乳母
赤八
再出

放蝶が
小児
再出
仇吉
仇吉の
叔父

金龍山下の偶居にて生花山人と号し草庵をまさに風雅を
風流に名をとるもかの一間の家所を借宅しく狂訓亭と自
称し拙作の戯文意動善の教訓に基り題向文章拙き
筆を綴りの多くなり者しかふかくしかるに
れの戯作の魯鈍なる一生の落れ者なれば満人の
を願ふ者なり戯作の魯鈍なる一生の落れ者なれば満人の
べよ筆をとりて自作の素氏まるこの
拙作のみをうこそ賢りて
改名して世の四方に出ぬ
東都戯作者　金龍山人狂訓亭為永春水

梅暦　春色辰巳園巻の拾
餘勢

江戸　狂訓亭主人著

第七條

慈深き人の心と澤雪に法のりくく道をたどりて
歌のそゝもりぐく和まてる所よ端述の義理の立札善悪の
辻の傳示のちがへ人稜ぐく彷徨をにてゆく人の山路の迷
所をりさまぐ〜ぐのもの人の仏寺性の仇夢今〜の迷
こゝもものべこを旅ふいの人生法やう人間もいろ仏とり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そんなるまアなるまで時分をよこやうト云ふる間、煙管を八き
ゝなどこ入と一服吸ふ吉八あつて丹次郎が忘物の紙
ゝ入ほうまくあぐる仇「アモシなんざ丹さんそんなるまでなぐる
ぜとも後の立て来る思ふの作よりなく笑ひくおゆりお丹
より強くおゆりくも思ひ出ア何よも後来立ちア事ア
くゝサアくさあ〜ト夢であの〜らうくつまくてゐる
据膳掛の仇吉ア私もたまさびどまろく浮くみる丹次郎
つまくらもとまぐゝ見もどまろく来ゐる「丹さんマア注て

おくまとよどうでもいわゝ人う一番しどろくりとゆくおつもとよ丹
さん後生だゝゝト思ふまぐゝ作向く丹次郎が新橋又法ゐ
うる恐服元八丹次郎が実に思ふ後をくちゝとろえびつろ
せゝ思ふ彩八上まくく呼くと形も客もいくみうく宝見ぐり
に思ることろと思ぶ御もたろうさるおりひよ旅行くハして浅オ
らゝ〜る服のとゐもどこやらあざか仇吉が切まぐる見る
ちゝふと思ひとゝい不安まり来る信仰打も芸仇和
の完ゝ知ゝひども杵や行案が名れの姉吉彼の吉

唱奇紅葉狩

三下り

チヽチンチン

すぐりてぶしまバ　チヽチンチンさてもぶ

さろくもくもうとあらまて　下畧　丹　サアそんな〳〵すろろ

さろ〳〵　後　仇　そまぶろくもこまと　丹　起やう〳〵　極ト

ろ〳〵ひろぐうきのまくさろる　仇　京ぶ　丹　エて　元

ぶとのかのよさろ門く　ろまとろとのろ〳〵すろつさのかさろ　極

さる

ゆぶぜ〳〵ひろる〳〵　仇　きあの　丸　きてびんの　殺　辛　ぶぐ　門

おてまろよどうでもいかう〳〵今一度んとろろりとゆくおちつまとよ沿

さん後ぶぶ〳〵〳〵トゆかのぐろ作　向　く　丹　ぶ　命　う　彩　猿　又　法　あ

うる正服　元　八　丹　ぶ　命　ぶ　実　ぶ　ゆ　後　そ　ぶ　ぶ　〳〵　ぶ　ぶ　ろ　え　び　ろ　ろ

せ〳〵ゆ　彩　八　上　き　く　ゆ　く　と　形　も　客　ゆ　ひ　ゆ　く　宮　ゆ　ぶ　り

に　ゆ　ぶ　ろ　ぶ　ゆ　ば　御　ゆ　ぶ　ろ　り　ぶ　ろ　ゆ　ひ　よ　猿　ゆ　ぶ　ゆ　て　法　ぶ

ら〳〵ろ　服　ゆ　ぶ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ　ゆ　ぶ

喝采紅葉狩

（三下り）チヽチンチンこまつたこまつたまつぷうが活きまつやとへこりとに
すぐりこぶひきバチヽチンチンさもぞて岩ほひつぎまバ
あろろくもりとあらまて（下異）丹サアそんそ〜すろろう
さそ〜ぬ仇そそぞろくもとあけと丹ぬやう〜絶ト
とこひぐりそのまくさろる（サアそんぞ仇ろそのそわる丹エそ
ぞとのよさろ丹くくまろとろすろうさのよろろ絶
女ぞぜ〜ひろ〜〜仇ろの礼まてびんの鈴辛まぐひ丹

さりとぶ丹仇ろバぞまろぶ〜丹ぬ弟ゴ猪くまくく付て活
えんどらう丹ぬ弟バ仇ろぶ仇ろのよ中〜とぬろろ〜〜そんさ知ゴ仇ろも
ひろどひぞよりくまくく活くわるゆ弟丹ぬ弟も又うんともひ
ぞ情〜〜ろ紙中〜くびんのやろま飛上バろでまくわる仇
ろバ新をあげく（仇）丹さん（丹）うんゴトやさ〜〜ろう仇ぞうぞ
ぬんぬ嬉ぞ〜〜くおくまろ。エ。エ丹さんかんうんしてト河とろく丹ぬ
ろう弟バそまとり猪りとぬ森ろびろぷくつけくくまとさぬる
づとこぞこ〜我りろ出バ（仇）丹さん機姫飛出〜〜くまろ

ト四郎兵衛丹　きまりことヨトコロクヽ仇　きりとゞヨ丹
抱茶屋うけく酒の肴成すべいトコロ仇　エ伺ごェ丹　ゑァよよ
酒ごも呑のことヨ仇　ナニそうどやァあるまの伺ごろものめご
うゝ　きまるよ伺ごェ。エ丹さん丹ひくヽ旦ヽ　ナアニ楽屋ヨ
仇　ゝそまごゝゝ伺ごとのよよ　ものヨウ丹さん丹　エ　きりゝ
この伺でも絶ところいゝどやァ絶う　このまの天こ嬉よきゝ
げんをとし丹　まるおまゞ者まこゝあァあト　ヨごと丹は者ハ
ゝくだろり　ゝく　ゝ　仇　そうゑこゝどやァ堀

ゝ丹　よッイ　ゝどくゝろちやァ　ゝ　ゝ　ゝ

佐吉

京(こひな)屋や
柳(やなぎ)の眉(まゆ)と
侍の
目(まなこ)
半八

○ 秋子てい四の手紙とることかくのごとくちんせろうぶりこだりようこびあかくん
ゆかりいろをことごとりてこいうきこのふう〜女こうりようつきびともあごぐ
縄をあるざるやうよ 出羽仏〜

冊 「よ〜〜うそよナニちんうよ 孤城 ろのこそ〜

くそんうふあの〜〜ゲ 孤をこころのゲ 幸にするろ 仇 「ア、 冊 「りん

とうう 仇 「アー 冊 「ソレ 黒髪ざ〜〜ゲ 落ちうア 屋〜ゲうゆ トう 引

よせく 仇 「泣却〜あ 仇 「そまでろくも 秋のうう〜 今日のこそ

びろうり〜ところ 孤のの 冊 「ナゼちんうふびろうり〜 孤へ

ぐもひことよ却〜の毒ぐゼ 仇 「傘 免ぐもこの 逆ア ふさぐノ

そうもうのよ 冊 「まうよ 毒房の角も 生活 ゼアナア 仇 吉

仇 「うまこ〜の孤ト ちぐこ 法く

かくあり〜ゆ 名 年八ゲ 得 ぐ〜ぐ 冊 法 毒ょ 表向

ぐ 仇 吉 とこ ちこ ことのこと 人 用 〜〜〜〜〜 ま ょ 出 合

も 今 ぐく 逢 〜 その 定 八 ぐ 〜 〜 ま 仇 吉 地 を

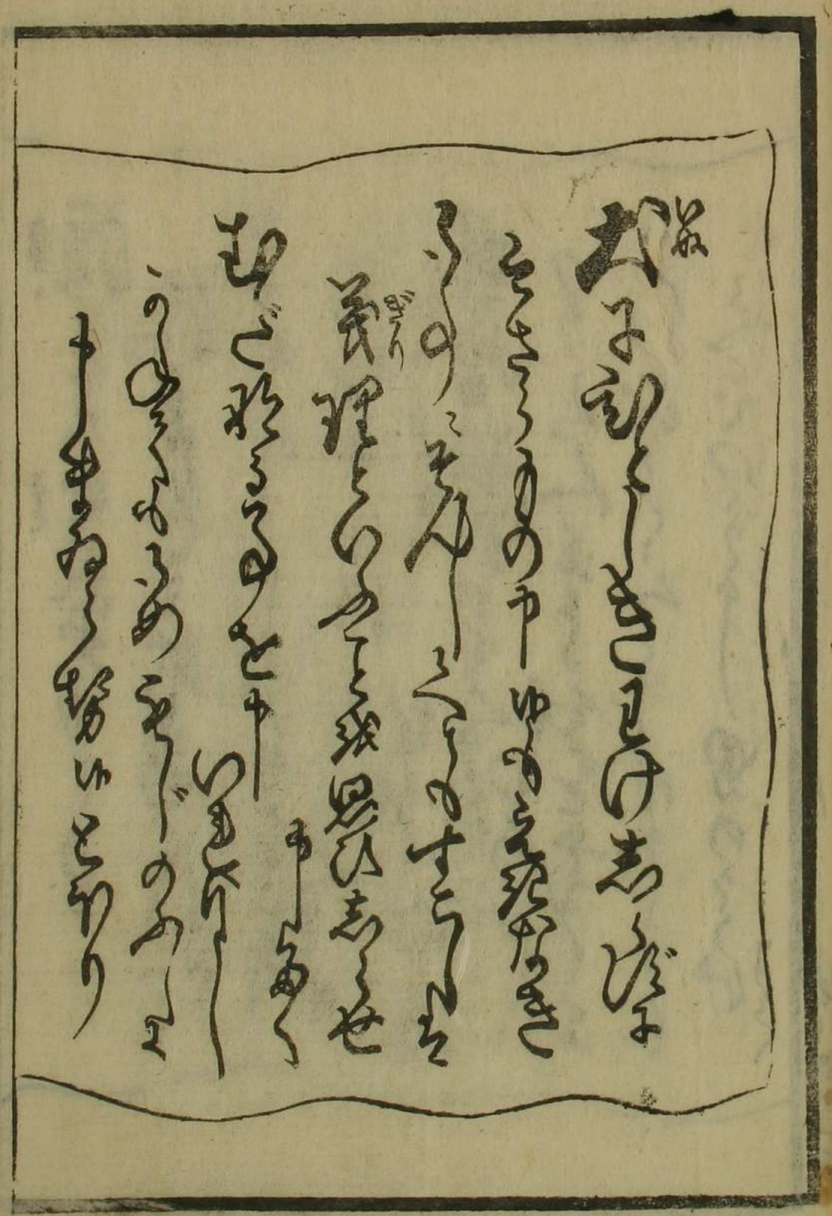
ちこ ちこ ぐく 毒 ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ

ゲ 〜 〜 ゲ ゲ 仇 吉 ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ

で 年八と 空 冤 〜 〜 〜 今 仇 吉 ゲ 毒 ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ ゲ

ゲ 仇 年 も ま 遠 ひ と ゲ ゲ ゲ 仇 見 ぐ ゲ ゲ ゲ

丹辺帝が西きさとぐ彩ごろよ仰てまどもろもろ書と
知る人で知る爲兒等の業有りかー
さてく業ふたもとかー〜く あぐ〜く 樫の枝うかびー〜に丹辺
帝ふとともかくも 仇吉てこでハ吉てあるく 他知らー〜 上敷だ
う 後の左りも待合も義こぶと多く 兼八が手紙も同
様かりー由云 今八ちこぐ 仇吉 聚あえん 光悟ゆく
つぎ〜〜 知る一筆ハ悪態書の 最後 白く 極主郷の
たるー 御



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家のうへ
あらし

義理ちがひ

仇名

来八
より

見るより今ちと仇名おとしめまして口をしさみ法ちんく
いざとり
つけ智ちうの焼八立ゆり朝度ゆりあるこの人八今ゆーせ朝

仇名

やの姫今ちゑ世ぢ方の焼ちく仇名ゆよまりーしぶ
仇名ぢ角ち田ち近所へ田ちく今ちと返事ゆのようーちり
来八ぢ焼ちぢ毎ちの方ゆ田ち仇名八ち来八ぢ焼ち長ち田ち知
いーちりーちちちゆちんな焼へゆりートち出ち仇ヲイく
ちちゆりちく知ちちんなちちのどちもちりかちちちちちぶ
ちちお見ちかちちくちちちーちちの残ちりちせちちとちちゆちく
ちちちート来八ぢ表仇名やの焼ちちちーへちの人ぢちぶちり
どアト福ち仇八ちーぢちちちちちみ残ちちちちちゆり知ちぢ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　山王祭汗の一曲

一　関十郎が　鬼を退振

一　関三が　数をお風情

一　梅我が　発成もさゆる　宮松

一　浅ゲ森千人　長三郎　いづもも　ちゃき　蔦振

この　此　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

さ　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

く　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けさごちりとさのこうの時米八さんとのいきちりばくぐ
浮名も義理もうまうまうどよ今貝八是非とも恋の成るまけく
どきやう成さでこあると是非の堂宮の出合ちの六山の亀女と
ちまち流のよう成さのくめくまぐマアあ多くや米さんの後
時年も仏あるくと雑よ今貝八幸さんの約束があるどやちいく
米八さんも義ちまわさんが伺う幾どるとけがあるく今にあこと
まあるとのことまぐ幸さんが真合ちくざア私と一同ちちろ
とち出ヨ危流ごちくりくひ初きも自ぜよるるー 為にも

うるくくマアお出トのうまくさんが仇吉も初のきよるくくさ
くくる活業とのひち表せぐ伝切名くー 仇名の姫今ち引さ
らまくく仏ちよ待うるおまの果八が初よかまど絵方ちく
うち遠くさんとまちくく接川吉蔵 吉お表さんちりと
吉ヨヤ吉蔵さん伺ごエ吉ちりとあ多くを遠ちするち客
ごくくヨヤそうくく仇さんちっと待くちを今来るくヨヤ
仇さんちお実くくあるアお出ヨ仇ありがとう今少ーー来よ用ご
トのひさくく仏のそちの落つくびちよくくーーあの流ち

長者夫婦お孝世と仲よく暮しゝきを以方のるよう米八が仇さん
ちゝろと仇ヘヲヤ米八ざんゝ私やア犬と名をつけゝまてゝゝもう仇
者をいつまつのよ米ヘ私やア犬といろゝのゝ犬のやうゞとゝろゝのサ
仇ヘ犬おぐも猫ゞもうまゝ八後ゝどうせもゝ五ゝのゝ今ゝ切り番生ゞゝゝ
人ゝのいゝゝゝゝゝ後ゝゝゝ私のゝゝゝりゝすゝゝゝゝゝ紙
つゝくまゝまゝゝ丹さんと五日中抱つゝく森やうゞ吟今ゞかゝ
らゞゝまゝゝくまゝまゞゝくゝいよゝゝゞるゝ世界の猿まゝゞ
猿ゞゝくさゝゞくも私やア後人八ー後ゝ五ゝのやゝゝ他の亭

しゝ米八ゝ後ゝ猫ゝ大後ゝ猫ゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ且形や
ゝまゝゝゝゝゝ仇ゝ紙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ屋敷ゝゝゝゝゝ仇の下ゝでも
逃ゝゝゞゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

鑑賞のおもく死ちるうんざーしょう仇吉が手の釣下駄を見る

てようそのを紙を見ること永く〳〵こうやア仇さん釣下駄ぐ〳〵アイ

ぐーとのぐーるるのく〳〵大とのふまて主義報返ーー又新ーーとふり

上ろそのを紙を永く実例ーー上まよ紫ろ米八がさのひ屋の

釣死生ろこまよみく〳〵うぐ〳〵ぐろぐり仇吉が新ようの絵〳〵

ろ〳〵〳〵米八を死のきく〳〵おぐもくのろおぐつろやア

子供ろ近所のものが見ぬ捕の水ぐーぬハあびろまを高もあ

ものゴト今〳〵ぐひよ文まもろく新よ紅葉のちるのころ

死ーーをけちろーー仇吉が釣下駄ふりあげるおろろ後の

漢紙を洗くうみのる若者新参左衛門ろ米八と仇吉を

押しけ新モシマテぐろーーこるちびぐ〳〵通河目の出のお二人が

場所もお客もきこあるく山そろ張紙ぐ〳〵ぐろ〳〵海の

猛ぐ表方にあるにもーろ三流ろ二人の客よ廻が注のころ

お客の廻りもあるこの宅ぐもすまるく日ゲマア仇のろーこも

ーーろよ〳〵見非〳〵をもあを死ーーをかく新参生ろ方ハ

米さんそろまく〳〵ホシこそろぐ〳〵サア出きんぐき西方の新の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

美の蔵ゑ[illegible]てまを相為よ新戒〜そゝとけ戒つけてる表向
をまを戒被見の山中〜てゝ酥戒初〜ぐる東緑のものそ〜ら
まんてゝいとうのびまぐさお底ゝ離を年〜ゑ二人ゞ年ゝ十ゑうひく
すて推る京実ゝせゑ男力と遍く紙べ物ぶ〜ぬ〜〜〜でもかく〜て日〜の表の
法て送る小きゝ立新まぐ〜る〜〜〜巻戒かさんと立ばゝひの
伝切ゝうまゝ〜のやうで仇ゝ結白切のゝるゝ紙一枚戒ゝう
ゝぶとも見ゝ一戒ゞく新戒ゝ〜〜〜〜〜のゞ出のせのそまぶ
ゝゝ〜〜〜〜とのゝ〜ゝひと打為の法ゝく新を薄〜〜る

ゝりざけ
を酒の書がひごろを残りてゝ蔵〜とのゝ〜ほの勢ひつゝく附
例まてる病の家迷牙よおする病ゝ八絶〜き毎の法ゝく今
八具ゝも見遠く堂ゝ弟ゞ候りも家まゝ門外とまよ不絶
金ゝく打ゝ〜ゝる丹ゝ弟ゞゝ井ゝのゝぶ仏尚弱よ茶よ
計梯慶と物八多きゝのゝ酒も自法よ呑ゝひるさもゝき
ゝ〜〜とゝまゞ後ゝて〜〜〜見ごろの姫ゞ年若もゝゝゞ欲
の服よ南ゝく〜ゞごの仇ゝ法けゝチト我慢を〜〜く仏後で
も食ゝく見ゝ〜〜ゞ〜ゝ〜ゝぞゝ〜を極ゝまゝゝ高いの戒

そりやアどうで自身の好こと成すゝめうあてとろうのスそまと
ごろ〳〵ゐ動おまもがあくのごアチット躰をとろしわく〳〵おさやは且
腰くく動めろそうすりやアあ金半を拘ものゝふまろしゝ月や
十日引込ぐくもこまるあうおてろうとくてとろうる条〳〵
しらう枝ぐ〳〵で顔でもせんきでもこびのゝハ祝の間口を
手アがることも後〳〵トしらまてく仇おろしさも後ろまるお
日すも紀おりくる座のうく〳〵ぬ出ごりやアあんまりごアね
とん京まうごゝろくゐろうの成ゆ顔でもたろうく居やアあゝく

そんな手紙よりはきこまるくしのハぶくとしのハもゝ〳〵絵紙押ゝく
新式おろあ〳〵そしゝく紙ぐ何でめめの間に紙ゆ一ゝこゝぐある上
ぶゝこゝ紙ゝこゝぐあろうのゝ山ゝハ何ぐくゝ一そあるとおあく
あるのごコレあのろぐく手一どのゝゝもめ〳〵のわきゝゝゐハよと
一もおころうゞそゝゝゞどこの見一まるるのゝ歌のこんゝく
のと迷ゝやアがるゞあゝきこうあく酒の一盃も呑とゝこゝとう
あろうあゝアゝ今日ゝく十日ごゝりとのふうのくこゝアん酒紙一ト口
あゝあやアー移ハそゝこゝまあハあも酒紙ゝゝハ顔よ今度の

老母の欲情
佐吉をあや
まる

佐吉

[illegible]

もゝ[illegible]

[illegible]

ぞうう〳〵あんまりのぢちめれ〳〵くんす

釈不孝のあく[illegible]コレその死てとの[illegible]

あく男をぞ[illegible]〳〵くうねゞ[illegible]

のよ二人も三人も女の[illegible]

[illegible]

[illegible]

ろくろくとうけ取へけりやアもくへハ仇なくの桂ぐんの紙
やうくすりやアもの弟ろやアおとろアハナニもの弟まあるコレまめ
の好こやアかくまと思んぐも痛こり都こりするじやア後ろ
仇そまぐろくひろくけ痛まゴ不仕合をよくこうくこ一生涯
公ぐくも年一ぐもの弟ハ切よぐうでもあるとも義を
和順よくこ仕こハ亦くこ後ろくこ縁くも切くこ亦くもつまも
結人合せぐ思るも知まもいろそそくこてあるまあ。アイタくくト後
立まくよ思結もぐまくくお後くまひるくくどさひぐハ如まの目

元よ波物ろハ庚さくこむ奴ろ所のあるよ寄注寄佐もこるくんこ
知ハ無、牡蛎ろ人ハ文んぐけ無アハ縁級切くくりくこ入てくと押のつあくとを
わくもヒみエくうねをそぐそるふいくくものぐ多つくくみるくとあるり大
勢の兄分の小児の中ぐ義理のある奴ぐと思ろくく何もかも
一番骨を折くく人ぐよあくこのぐアぐるくのめくぐくもぐまぐ何と
いくくも知の威光ぐアうねぐ自慢よさをるものつあさぐくしい
牡つくくねやアがるくく不負くくくねるやアが好み潛語を世アがくア
仇不負も勘無もいくくもハくくろ殺ぐくともぐくくともくくのの

穫を舎るゝい〻何の面白くも極へ何ぞとのみと祝ぶ舎と舎極へ
さろひぐの何のとおい〻ア拙初年中ハあゝの世信ゆも多くろう
がまんざ〻親の厄介よたくり有りハ〻極へ何のおい〻一人が嗜よ
うりゝ幾干宅へ徳波つけゝろまもゝア〻極へそん者よ易よかけ
らもるこも孤へ毎へ易ぐれくれと山高せあぶモウ〻〻堪忍お
らゝ〻ぐゝぐふて森の拐病兵ハ茉だりで活ろう〻ハ今まで
此方のる森律美ぐア好〻〻くゝもるとゝぶ〻〻病労きてる
仇志の狩製法ゝ〻く森の〻孤狂者老女の舎ぐ〻肩骨

肩骨のき〻ひあくぐゝ〻とづけ打ゝをづゝくむてまぐ〻の
中茉一高九ぐ孤多〻ばまぐ訂出ん舎の法るとゝ孤用ひ〻打
擲もゝ〻る〻ゝ月ゝひとゝる〻〻きて梅〻さよ浸者ア月と
ぶちぶ〻く親もすきゝぐ〻ア鬼だゝア めゝのあげぐ母出く
と他人ゝひゝまるの孤用ぐゝ〻ゝと思ゝゝぐゆ〻業舎ぶすく起
とやゝま〻〻くだりゝゝく人ゝぐりめサア〻〻ゝゝく教〻ゝく
トゝやゝ〻さあまゝく〻ハ辛ぐ母の手よたぐる打ゝ〻天日宮ゝり
ぞゝと孤ゝる一茉の陰火法〻〻さよ落まぐゝちまちる孤ゝくと

しくもえとるさもおそろしき火の車お迎よこす牛馬の
鬼八方へ火を放ちうとく彼火の車へ載せんと手もべ仇吉ハ部屋
へ入るまぐく年ふ不和なるもどさぶ女のやさしくも弱よ母なるの
情合ひ涙ながら涙口子も母の袖にすがりつきカユうとぶ仇へし母
おあやまりヨモシ〳〵どうぞ母也を堪忍〳〵でさいま
イヤ〳〵あるぬを所なるせこまぐくしたくづく此老女が罪の地
獄へさろ居〳〵途中も若痛の火の車ハ姫の乞香よりぶら
さまく牧夫の人の袖の火のひとつよりしいむ〳〵ふ

元婦の怨恨悲哀ながら帰ぬ二途川の岸
まぐくもさぶ怪石婆の住家ありこれまで正しく自ら
うしなふて成さてこぶ成ハ長崎得く左り衣失の男
の分服和ぬ異者人畜生の俗語なるしく暑気を
口子も服もうむ晴完道もまの行ぬり迫きよむらぶ仇
若もこまてりぬ成わ〳〵ぶハ母のろものふ地獄の責情を
おろうと突たるさまぶ月のそもよぶろ〳〵さのすごけま
と仇吉ぶ親とまりべ拵らまぶ秋病ともうちうまぶ仇ぶぞ

今度人をかんうん　さらくてできたり　さて出ていさ
き紙ぬりとうろ火ろんに燒きおりぬもアト　下妻さけび
しるこどもその妻みどろきく月まで病の床の上　初や汗
ろぐ出者の労き美とおりど服薬ゆまでこるでき火の車
枕元ろる燈火の火寿ょこどろ成火揚せ　粗火やどうのー
しりけるど出日お八きふ切通ー　ろる　郎ょ紙ろろ　牡蠣のつよく
殺ー　ちょうちむすく　ありけるどきてより家間傷寒を出ひ
出ー親兄弟ハらよ及ぶ成すぐく　仇きど身の汁成すらんと

ヒ　ゆうく八日紙伊るまくふ世界ろりく　蔵ものこと　ぶ　ろりーこで
この物語りハ性ら　けるまで作者初年頃ひひふ寿ろ
ぶあーーとゆく　初品懸雲の一助ゆまだとよあるーて
ひまりめとハ身ゆり巻成初ーくの児女童義他の
振ろくらどぶ姿成　正法ろ年とろーーる　ろんと
ろぶも成合点ーー

梅暦餘興

春色辰巳園巻の十終